

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 食品生命科学科

職階 教授

氏名 大田ゆかり

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私の教育としての責任は、学生が社会に役立つ人間である喜びや尊厳を感じながら、自らの役割を見出し、それらを責任を持って担うことができるよう支援することです。食品生命科学科と環境科学科の学生に対し、食品衛生に関する講義や実習と演習（食品衛生学、HACCP管理論）を担当しています。大学院オムニバス科目（科学者・研究者論）の1回分を担当しています。食品生命科学科学生6名の卒業論文指導を担当しています。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
微生物学総論	食品生命科学科	必修	2	49
微生物学総論	環境科学科	必修	2	78
微生物学実習	食品生命科学科	必修	2	46
微生物学実習	環境科学科	必修	2	69
食品衛生学	食品生命科学科	必修	2	45
食品衛生学	環境科学科	必修	2	67
食品衛生学実習	食品生命科学科	必修	2	45
食品衛生学実習	環境科学科	選択	2	20
HACCP管理論	食品生命科学科	選択	4	37
卒業論文	食品生命科学科	選択	3	9
卒業論文	食品生命科学科	選択	4	6
食品開発PBL実習	食品生命科学科	選択	2	40
リサーチローテーション	食品生命科学科	必修	2	46
科学者・研究者論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	24
微生物学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	2
微生物学特別演習Ⅰ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
微生物学特別実験Ⅰ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私の教育理念は、学ぶ喜びを感じながら進んで知識を拡充し、想像力と誠実さを持って社会における責任を果たすことのできる、信頼される人間を育てることです。教員自身が規則を守り、責任のある行動を行うことで規範となるとともに、安全な学習・研究環境の整備に尽力しています。

実社会で活躍できる素養を身に着けられるよう、常に現実社会で起きている課題や様々な関連分野の教材を広く見渡ししながら、重要点を見極め、独自教材に反映させるよう努めています。

新しい発見や価値に出会う喜びを学生と共有し、ともに学び、ともに成長し続けることができることに重きを置いています。誠意を持って行う普段の積極的なコミュニケーションを通じて、学生の個性を理解し、個性が強みであることを基本として捉え、自己肯定感を育むことを目指しています。また同時に相手を思いやる想像力や誠実さの重要性、共に生きる喜びとその尊さ、そこから得られる幸せを伝えることを言葉や行動で示すことを常に心がけています。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

わかりやすい、楽しいと感じられる講義を目指しています。講義資料は、要点を絞り、図を多用して視覚的にも理解が早まるよう作成しています。暗記すべき基礎知識を表にまとめ、穴埋め形式や質問を加え、自習教材として使えるように構成し、掲載予定時間を守ってAzaMoodleに掲載しています。講義内容は食品衛生に関連する学問の重要性と世界の人々や地球環境とのつながりに重点を置き、食を通じた地球共生系を意識できるように考慮しています。対面講義の場面では、前述の資料に加えて、講義内容に関連する社会的な課題や取り組み、知的好奇心を刺激するトピックス（動画教材や最新の学術論文）をモジュール的に盛り込み、集中力が継続できる講義となるよう心がけています。また手書きで自身の曖昧なイメージをビジュアライズしたり、思考を整理したりする課題を出し、自ら考え、個性や創造力を発揮できる機会を作っています。また優秀な提出課題については、講義中に発表してもらい、その取り組みのスマートさ、表現方法の明確さ、オリジナリティーの高さを具体的に解説しています。

研究室における卒業論文指導では、研究室が1つの社会であることを伝え、個々が責任を持って役割を担えるよう指導しています。また卒業後には自信を持って社会に出られるよう、習得を希望する専門的な技術について具体的な実技指導を行っています。より実践的な技術が身につくよう、実験や分析における失敗においても、背後にある解決すべき課題を自ら見出せるよう、段階を追った論理的な思考を支援しています。企業との共同研究にも参加を促し、社会における科学の意義や責任を学ぶサポートしています。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

食品衛生管理をテーマとして、グループワークを行い、発表・意見交換を行いました。食中毒事件に関する自主的な調査課題を実施しました。優秀者には発表を行ってもらい、特に優れた点について詳しく講評を行いました。研究室配属生には、卒業研究活動を紹介するイベントに企画の段階から積極的に取り組んでもらい、自身が取り組む研究活動の意義を客観的に説明できるように指導しました。

(2) ICTの教育活用

有

AzaMoodleを活用しました。講義資料や参考情報の掲載、出欠、課題提出、小テスト、アンケート、投票、学生のログ・IPアドレス確認などの機能を使い、個々の学生の就学態度を踏まえて、教材掲載や課題提出期限のタイミングやアナウンス方法を検討し、学習効果の向上を図りました。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義資料に加えて、関連する社会的な課題、知的好奇心を刺激するトピックス（動画教材や最新の学術論文）をモジュール的に盛り込み、集中力が持続する講義構成となるよう心がけています。講義では、英単語や英語のフレーズをキーワードとして使用し、グローバルな視点を育てるとともに、リズム感を持って重要なポイントを強調するようにしています。手書きで作成する提出課題の評価では、独自性や創造力を高く評価しています。

(2) 学生の理解度の把握

B

知識の定着を図るため、講義の難易度が高くなるタイミングで小テストを行い、理解度を確認しました。グループワークで行った課題についても各自の提出を求め、一部の学生の理解度に不足がないか確認しました。再履修生に対しては、可能な限り面談を行い、昨年度までのつまずきの振り返りを一緒に行いました。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義資料を自習教材として使えるよう、わかりやすく構成しました。また実社会に繋がる課題を自主的な調査課題として選びました。講義の区切りごとに小テストを行うとともに、定期試験前には全体を通じた要点を再度示し重要点の徹底を図りました。自学自習を通じて取得できる資格を案内し、その試験問題や模擬問題の一部に取り組みせ、続く自学自習による将来の明るい展望を伝えることで意欲向上を促しました。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

複数の授業終了後に、学生に対面やAzaMoodleにて、講義方法に関するフィードバックをお願いし、質問しやすい環境をつくるようにしています。研究室ではディスカッションに時間をかけ、研究活動のプロセスを楽しみとして共有するようにしています。できるだけ多くの学生の名前を覚えて、ひとりひとりに声かけをしています。学生との普段のコミュニケーションの中でのエピソードについても、継続的にフォローするようにしています。

(5) 双方向授業への工夫

B

上述のアクティブラーニングを、短時間で行えるものの含めて、ほぼ毎回の講義で行いました。講義中のアンケートでは、回答をリアルタイムで学生と共有し、臨場感を楽しみました。講義終盤で行ったグループワークでは、双方向授業の積み重ねの効果が表れ、活発な議論とともに笑顔があふれ、履修者間での一体感が感じられました。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

分かりやすいと好評であった講義資料をできるだけ生かしつつ、最新の情勢も盛り込んだ内容にブラッシュアップしました。昨年、楽しかったとの感想が多かったグループワークを同様に継続しました。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

講義資料は引き続き好評でした。積極的に発言や質問をする学生も多かったです。一方、2学科共同開講の講義・実習が開始となり、大規模クラスでは双方向コミュニケーションの面で物理的に希薄となりやすい点に、昨年度までとの違いを感じました。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

より教科書の内容や文言に沿った説明を行い、オンデマンド動画も含めて、内容を各自が復習できるようにする予定です。学習内容を反復できるタイミングを増やすことで各自の学習への意識を高く保ちます。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

教科書に沿って、重要な箇所を強調した独自教材を作成し、内容を各自が復習できるようにしました。身近なトピックスを多く盛り込み、社会に役立つ人材になるために、現在の学習があることを知ってもらうよう努めました。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生から「講義資料がわかりやすい」「ちゃんと教えてくれる」「この資格試験を受けてみたいからもっと詳しく教えてほしい」「この研究室に所属して良かった」などのコメントを受けました。学部・学科の複数の教員から「学生がアクティブで楽しそうな研究室」とコメントがありました。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

可能な限り参加しました。対面参加できない場合には、オンデマンド動画を利用しました。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

次年度目標：

新しく担当する学部と大学院微生物学分野の科目について、今年度受けたフィードバックを活かして、より効果的な講義構成と教材を工夫して、学生が積極的に参加できる講義を実現したいと考えています。

長期目標：

より多くの学生が深い学問や研究にじっくりと取り組む探求心を持てるよう、大学における専門性の高い学術領域の重要性やその面白さ、研究の高揚感を伝える教育を実践したいと考えています。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材、授業評価データ、学生のレポート、指導学生の学会発表成果